

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の 見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>41</b>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20年12月1日 開始 10時00分 ~ 終了 15時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 関屋おもと _____ (新潟県)
評価調査員の氏名	氏 名 <u>山崎 由美</u> 氏 名 <u>星野 久美子</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u> 氏 名 <u>横田 真美</u>  ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

**項目番号について**  
外部評価は41項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**記入方法**  
[ 取り組みの事実 ]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[ 取り組みを期待したい項目 ]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[ 取り組みを期待したい内容 ]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

評価確定日平成20年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1590100333
法人名	社会福祉法人 とやの福祉協会
事業所名	グループホーム 関屋おもと
所在地 (電話番号)	新潟市中央区関屋大川前1丁目2番36号 (電話) 025-231-5660
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成20年12月1日

## 【情報提供票より】(20年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5階建ての	5階 ~	5階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	3名	要介護2		4名		
要介護3	1名	要介護4		1名		
要介護5	名	要支援2		名		
年齢	平均	84.1歳	最低	72歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仁成会とやの中央病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年1月、介護福祉施設を中心にサービス展開する法人が、初めて手懸けたグループホームである。新潟市中央区越後線関屋駅より徒歩約7分、交通量の多い道に面し、直ぐ脇の信濃川対岸には県庁を望むことができる。とやの福祉協会「関屋おもと園」の5階に位置している。1階デイサービスセンター、2,3階はショートステイ、4,5階の一部が特別養護老人ホームになっており、併設施設とともに地域と関わりサービスを提供している。その人らしく今までの生活を大切に維持できるよう毎日を試行錯誤しながらより良いグループホームを目指している事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が説明し、職員も評価の意義を理解している。自己評価の中で課題の気づきがあり、今回の結果を改善に向け話し合い、取り組む予定である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>民生委員、地域包括支援センター、知見者、家族代表、園長、併設施設職員、職員の8名で2ヶ月に1回行っている。運営・活動報告を行い、地域との災害時の連携や行事参加等について話し合い、意見をサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時に話を聞くよう心掛け、ケアに繋げている。また、意見箱を設置したり、面会時や家族参加の行事の際に積極的に意見を聞き、運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接の精神障害者通所授産施設経営の喫茶店に出かけ、行事の参加や食事をし、馴染みの関係となっている。地域の行事には、積極的に参加している。月1回民生委員の話し相手ボランティアを受け入れる等交流している。しかし、地域の方がホームに来訪する機会が少なく、気軽に行き来でき地域の一人としての交流強化が今後の課題である。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個別ケアの徹底「家」=「暮らし」を実現できるように「明るく 楽しく 和やか」をモットーに、地域に根ざしたサービス提供に努めることを理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有スペースに理念を掲示し、意識付けしている。毎月のカンファレンス時に業務に対する姿勢について話し合い、理念の取り組みを確認して職員に周知している。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	建物入り口には看板等の表示は見られず、ホームの存在が希薄である。家族には入所時の説明やホーム便りで伝えている。地域には民生委員を通じ伝えているが、理念にもある地域密着型サービスとしての意義・役割を浸透させる取り組みには不十分である。		看板設置や入り口に紹介の掲示をしたり、お便り配布、ホーム行事、認知症・介護相談等により地域との交流を深め、多様な機会を捉えホームの存在や果たそうとする役割について伝え、理念を浸透させる更なる取り組みが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の精神障害者通所授産施設経営の喫茶店に出かけ、行事の参加や食事をし馴染みの関係となっている。地域の行事には、積極的に参加している。月1回民生委員の話し相手ボランティアを受け入れる等交流している。しかし、地域の方がホームに訪れる機会が少なく、気軽に行き来でき地域の一員としての交流強化が今後の課題である。		町内会・自治会等に参加し、地域の一員として地域活動への参加や、地域の方にホームを開放し、見学・行事やレクリエーションの参加を勧めたり、ボランティアや児童の定期的受け入れ等、気軽に訪問できる環境づくりを行い、交流を強化していくことが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初回の外部評価であるが、管理者が説明し、全職員が評価の意義を理解している。自己評価の中で課題の気づきがあり、今回の結果を改善に向け話し合い、運営推進会議にも報告し取り組む予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、同建物内の併設施設と合同で開催している。利用者状況・活動報告等を行い、情報交換し、意見をいただきサービス向上に活かしている。災害時の連携体制について話し合ったり、地域の行事参加の依頼があり、意見を反映させる取り組みをしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、介護相談員の訪問を受け入れている。質問や相談があれば市の担当者に連絡を取っているが、定期的に行き来する取り組みには至っていない。		定期的にホームの実態を報告・広報誌の配布・市を交えてグループホームとのネットワークづくり等、グループホームを理解する働きかけを行い、市と連携してサービス向上に取り組むことが望まれる。
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族や職員で話し合い、全職員で虐待防止に努めている。学ぶ機会が無く、地域包括支援センター職員と勉強会開催を検討中である。		外部・内部研修・勉強会を充実させ、高齢者虐待関連法を理解し、共通した認識で虐待防止に努めることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回ホーム便り・会計報告・暮らしぶりをお手紙・写真と共に報告している。また、体調の変化があった場合や受診結果はその都度電話にて連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話を聞くよう心掛け、ケアにつなげている。また、意見箱や苦情窓口を設置したり、面会時や家族行事の参加の際に積極的に意見を聞き運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や月1回のカンファレンス時にて意見を聞き、業務を見直す機会とし、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者が馴染み職員の支援が受けられるよう、ホーム職員の異動はしないことを原則としている。また、代わる場合は先輩職員と利用者に関わり、引き継ぎ申し送りを徹底し、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	併設施設と統一のもの、事業所独自のもの、各種のマニュアルを整備している。連絡ノートに添付し回覧したり、会議で話し合い周知に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設にて体験研修を行い、認知症高齢者の介護技術の向上を図っている。管理者は資格取得を含め相談を受けたり、カンファレンス等で話し合っているが、定期的な勉強会は実施されていない。		現場の中での新人・経験年数に合わせたプログラムづくり・勉強会計画を行い、個人目標・面談を活かし、資格取得を含めた法人内外の研修を段階的・個別的にすすめ、職員のスキルアップ・サービス向上に繋がることを望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム経験職員がいないこともあり、管理者・職員ともに交流の必要性は感じているが、日々の支援で余裕が無く、できていないのが現状である。		連絡協議会の活用や市(区)とも連携し、勉強会・相互訪問・交換研修等の機会を持ち、ネットワークづくりや交流を深め、サービス向上につなげることを期待する。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々のコミュニケーションでストレス・悩みの把握に努め、管理者と職員は良い関係ができています。休憩室にて交代で休憩を取り、休める環境づくりに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族が安心・納得してサービスを受けられるよう話し合い、利用前の体験や見学を勧めている。使い慣れた物を持参してもらったり、居場所づくりに配慮し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と尊敬の念で一緒に過ごすことで知識・経験から学んだり、日々のレクリエーションや調理等で楽しみを共有し、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に外出したり、不穏時は電話したり、日頃から家族に関心を持ってもらえるように声かけし話し合い、家族と共に支え合う関係を築いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で居室担当職員を中心に、本人の希望・意向の把握に努めている。特にお風呂に入ったときに話される方が多い為、お風呂での話を大切に希望に沿った支援につなげている。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係者(以前のサービス利用がある場合はケアマネージャー等)より、これまでの暮らし方・生活環境の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当職員が中心に本人・家族の意向を把握、管理者が仮の介護計画を作成し、本人・家族同席のもと話し合い計画を作成している。ケースによっては、併設施設の看護職員や管理栄養士等からも助言をもらい、本人本位の計画作成に努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月居室担当がケアプランの評価をし、3ヶ月に1回介護計画を見直ししている。利用者に変化が生じた場合は本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じ、定期的な通院や、日常の外出・併設施設のデイサービス参加等、柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、緊急時対応について説明し、協力病院をかかりつけ医とすることを本人・家族に了解を得ており、協力病院に月1回定期受診を行っている。通院介助時に情報交換を行い、適切な医療を受けられる支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは看取り支援は行わない方針であり、契約時に説明し同意書をもらっている。定期受診時に医師と健康状態について相談し、家族への報告・話し合いにより、全員での方針共有に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時は小さな声でさりげなく誘導したり、同室介助する場合羞恥心を理解し対応する等プライバシーに配慮している。個人情報ファイルはスタッフルームに保管している。しかし、プライバシーについて学ぶ機会がない。		研修の機会を設け、職員がプライバシー保護の徹底、個人情報保護法について共通した認識で、個々の尊厳に配慮した支援を行うことが望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間等一人ひとりのペースや希望に沿って、どのように過ごしたいか確認し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しや一連の食事作り・食事・片付け等、一人ひとりの好みや有する力を活かし一緒に行っている。季節感や行事に応じ、楽しめるよう配慮しているが、食器に名前を付けたり、皆同じプラスチックトレイに配膳する等、家庭的雰囲気欠けている。		暮らしの中で食事を重要な場面として捉え、プラスチックトレイを個々や季節に合わせて、ランチョンマットに変える等、家庭的で楽しめるように配慮し、支援していくことが望まれる。
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員間で情報を共有し、失敗を軽減し気持ちよく排泄できる支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望・タイミングに合わせて、時間帯や回数を配慮し、支援している。入浴剤を使用したり、唄を歌ったりして楽しみなものとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、洗濯たみ・調理・掃除等進んで役割に力を発揮する場面を支援している。行事系の職員が利用者・家族の意見をもとに余暇活動行事やレクリエーション内容を計画し、楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望が多く、暖かい日には散歩をしたり、買い物に出かけ、一人ひとりの希望に添えるように支援を行っている。ホーム行事に家族にも声かけし、外食やドライブ等外出する機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを策定し、職員間で見守りを徹底してケアに取り組んでいる。身体拘束について正しく理解し、職員の認識を統一する機会がない。		禁止となる具体的な行為とその弊害について、勉強会等で話し合い正しく理解して、共通した認識で身体拘束をしないケアに取り組むことが望まれる。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が弊害を理解し外出等自由な支援に心がけているが、ホームが5階に位置することもあり、安全に配慮し施錠している。		鍵をかけない暮らしの大切さを再認識し、個々の状態に合わせて見守りを徹底し、職員間や地域の連携強化により、短時間の開錠からはじめ、鍵をかけないケアに取り組むことを期待したい。
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開所後事故は発生していない。事故防止のための各種マニュアルを策定し、ヒヤリハット報告書を記録し、職員全体でカンファレンスし改善・共有に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	安全管理マニュアルを策定している。開所時建物内に設置されているAED使用法について勉強している。しかし、定期的な救急救命法訓練は実施されていない。		行政関係者や消防署の協力を得て、救急救命法の定期的訓練を実施し、急変・事故発生時にマニュアルに沿い慌てず確実かつ適切な行動がとれるよう、周知徹底を図ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で備蓄を備えている。今月、併設施設合同で地域にも参加・協力を呼びかけた避難訓練を実施の予定である。今後、ホーム内のみの避難訓練を含め、定期的実施を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は本人・家族より好みを把握し、料理雑誌等を参考に、給食係の職員が1週間ごとに作成している。併設施設内の栄養士に相談し、季節や栄養バランスに配慮している。一日の食事・水分摂取量が記録され、一人ひとりの状態に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いフロアのリビングには、季節の飾り付け・写真・習字等手作りの作品が飾られている。畳コーナーにはこたつが置いてあり、季節感が感じられ居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのクローゼット・ベットの他に、本人・家族と相談し、使い慣れたものを持参してもらい、居心地の良い空間作りを工夫をしている。		